

大分大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー：CP)

<教育課程の編成と教育内容>

社会や保健・医療・福祉の変化を見据え、看護の質向上を実現できる実践力を養い、看護実践・看護管理・看護教育の場でリーダーシップを発揮できる高度専門職業人の養成を行うために、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、以下の方針で教育課程を編成し・実施する。

- 1) 看護研究コースは、変動する社会の要請に応え得る質の高い看護活動（個人・集団への看護実践とその管理ならびに看護教育）を創造し、改革するための諸理論と方法を修得するためのカリキュラムを編成・実施する。
- 2) 専門看護師コースは、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専門看護師 38 単位）に則り、専門看護師としての高度実践能力を培うためのカリキュラムを編成・実施する。
- 3) 両コースの共通必修科目は、看護現象を科学的かつ倫理的に探究するために基盤となる科目を配置する。
- 4) 共通選択科目は、学生自身が持つ看護活動上の課題について探究できるよう多彩な選択授業科目を編成する。
- 5) 専門コース科目は、健康科学、看護管理・教育、看護実践、がん看護、クリティカルケア看護、老年看護等の専門分野における高度な知識や技術、実践を修得できるような科目で構成する。
- 6) 特別研究科目は、共通必修科目、共通選択科目、専門コース科目を基盤に、学生自身が持つ看護活動上の課題や関心から研究へと展開する研究遂行能力を培うために、指導教員のもとで研究過程を学ぶ体制を整える。

<教育方法>

- 1) すべての科目は、学生による発表・討議を中心に行う。また、学術論文や専門書等の文献検討、自身の看護活動の言語化・概念化を繰り返し行い、知的探究力を養う。
- 2) 学生個々の背景（基礎教育や看護活動経験等）の多様性・特徴を理解した上で、学問的、科学的探究の本質と方法について個別的に教育・指導を行う。
- 3) 修士論文指導においては、担当教員による個別指導が基本であるが、論文提出から公開審査までの間、審査委員会による教育的な予備審査をとおして修士論文の洗練化を指導する。
- 4) 社会人の就学と仕事の両立を可能にするため、長期履修制度や昼夜開講制を適用し、学生が計画的に履修できるよう教育・指導を行う。

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、アセスメント・チェックリストにより実施する。

- 1) 毎年度、学生対象に教育評価調査と教員による授業科目の教育評価を行い、「大学院看護学専攻教育評価」としてまとめ公表する。
 - (1) 学生対象の調査は、学修目標の到達度や授業科目の学修評価、教育全体の評価で構成する。学生にとっては、自己の学修成果と課題を評価する機会となる。
 - (2) 教員は、担当する授業科目の実施状況と評価を記述し、次年度以降の教育改善に活かす。
- 2) 修士論文に関する学修成果は、研究倫理審査や修士論文研究計画検討会、公開審査における学生の発表内容や質疑応答の状況により評価する。公開審査後、看護学専攻部会において各修士論文の審査内容を共有し指導評価を行う。

大分大学 アセスメント・チェックリストに基づく点検（モニタリング）表 [令和5年度分]

学部・学位プログラム等	医学系研究科大学院修士課程看護学専攻	最終更新日	令和6年（2024年）6月19日
-------------	--------------------	-------	------------------

- 「名称」欄には、アセスメント・チェックリストの「名称」を番号が対応するようにすべて記載してください。
 - 「実施の有無」欄は、実施したものに「○」を記入し、未実施にものは空欄としてください。
 - 「備考」欄には、実施できなかった場合の事情等を記入してください。
 - 「評価」欄に、結果から改善・向上が必要と認められたどうかを選択肢から1つずつ選択してください。「特に課題は見つかっていない」以外を選択した場合は、その内容を記入してください。些細な内容でも構いません。**改善・向上に繋がる評価が行われていることが重要です。**改善・向上の必要が特に認められない場合には空欄で構いません。複数年度に渡る取組や、過去の未対応や計画・実施途中の改善についても記入してください。
 - 「改善・計画」欄に、改善・向上のための具体的な計画を記入してください。
 - 「改善実施・評価」欄に、現状の取組状況を記載してください。
- ※ 本点検表では、「評価」、「改善・計画」、「改善実施・評価」欄は**概要のみ**を記載し、詳細についてはレビューの報告書で記載します。

番号	名称	実施の有無	備考	評価 (Check)		改善 (Action)・計画 (Plan)	改善実施 (Do)・評価 (Check)
				アセスメントの結果から科目やプログラム等に改善・向上が必要と認められた点 (過去の未対応や計画・実施途中の改善を含む)	改善・向上のための今後の具体的な計画	現状の改善・向上の取組状況と効果	
1	年間学年別単位取得報告	○		<input checked="" type="checkbox"/> 特に課題は見つかっていない <input type="checkbox"/> 改善・向上できる点がある <input type="checkbox"/> 将来的に改善が必要である <input type="checkbox"/> 速やかに改善が必要である			
2	修士論文冊子	○		<input checked="" type="checkbox"/> 特に課題は見つかっていない <input type="checkbox"/> 改善・向上できる点がある <input type="checkbox"/> 将来的に改善が必要である <input type="checkbox"/> 速やかに改善が必要である			
3	学位論文審査結果等報告書	○		<input checked="" type="checkbox"/> 特に課題は見つかっていない <input type="checkbox"/> 改善・向上できる点がある <input type="checkbox"/> 将来的に改善が必要である <input type="checkbox"/> 速やかに改善が必要である			
4	修士論文審査の評価表	○		<input checked="" type="checkbox"/> 特に課題は見つかっていない <input type="checkbox"/> 改善・向上できる点がある <input type="checkbox"/> 将来的に改善が必要である <input type="checkbox"/> 速やかに改善が必要である			
5	大学院生による教育評価調査	○		<input type="checkbox"/> 特に課題は見つかっていない <input checked="" type="checkbox"/> 改善・向上できる点がある <input type="checkbox"/> 将来的に改善が必要である <input type="checkbox"/> 速やかに改善が必要である	R6.2～3月に調査を実施し、7名(58.3%)の回収であった。そのうち、4名(57.1%)の「学習目標に対する達成度」が「不十分」とし、論理的思考や自分の考えを言語化できないことを自己の課題としてあげていた。	令和6年度は、院生を主体としたゼミ形式での授業形態とし、ディスカッションを通して論理的思考や言語化を促す授業を展開する。	計画を実施中(R6.6.4)。R6年度6月4日開催の学科内大学院専攻部会内で、左記改善計画を共有し、R6年度の大学院授業に反映させる予定。
6	教員による授業評価	○		<input type="checkbox"/> 特に課題は見つかっていない <input checked="" type="checkbox"/> 改善・向上できる点がある <input type="checkbox"/> 将来的に改善が必要である <input type="checkbox"/> 速やかに改善が必要である	R5年度「大学院教育評価」の各科目の「評価」項目において、事実内容の記述に留まっている傾向にあり、評価したことを次年度に十分活かされていない。	令和6年度「大学院教育評価」の各科目の「評価」項目において、①目標の達成状況、②達成度をもたらした要因、③次年度にどう活かすのかの3点について、確実に評価するためのフォーマットを作成する。	R6年度「大学院教育評価」を作成時に準備し、実施する予定。
7	修士論文研究計画検討会	○		<input checked="" type="checkbox"/> 特に課題は見つかっていない <input type="checkbox"/> 改善・向上できる点がある <input type="checkbox"/> 将来的に改善が必要である <input type="checkbox"/> 速やかに改善が必要である			
8	臨床研究倫理セミナー小テスト	○		<input type="checkbox"/> 特に課題は見つかっていない <input checked="" type="checkbox"/> 改善・向上できる点がある <input type="checkbox"/> 将来的に改善が必要である <input type="checkbox"/> 速やかに改善が必要である	R5年度在籍の大学院生10名中、3名が未受講であった。	第16回「臨床研究倫理セミナー」受講のお知らせを配信し、受講を促す。	第15回以前の「臨床研究倫理セミナー」未受講の大学院生に対し、個別に連絡し、受講後の報告を受ける。計画を実施する予定。
9	医学部倫理委員会	○		<input checked="" type="checkbox"/> 特に課題は見つかっていない <input type="checkbox"/> 改善・向上できる点がある <input type="checkbox"/> 将来的に改善が必要である <input type="checkbox"/> 速やかに改善が必要である			